ボリュームキャッシュ
Volume caching

NetApp
October 06, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/console-volume-caching/index.html on October 06, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

ボリュームキャッシュ 1
リリース ノート 2
ボリュームキャッシュの新機能 2
2025年10月6日 2
2023年6月4日 2
ボリュームキャッシュの既知の制限 2
キャッシュエクスポートポリシールールのコピーに関する制限 3
同じ名前のストレージVMのキャッシュ作成が失敗する 3
新しいエクスポート ポリシーまたは最近編集されたエクスポート ポリシーの表示が遅れる 3
宛先でCIFSプロトコルのみが有効になっている場合、キャッシュの作成は失敗します 3
始めましょう 4
ボリュームキャッシュについて学ぶ 4
NetAppコンソール 4
キャッシュとは何ですか? 4
ボリュームキャッシュの利点 5
ボリュームキャッシュでできること 5
料金 5
ライセンス 5
ボリュームキャッシュの仕組み 5
ボリュームキャッシュの前提条件 6
ボリュームキャッシュのクイックスタート 6
ボリュームキャッシュを設定する 7
NetAppコンソールでコンソールエージェントを作成する 7
システムを作成する 7
アクセスボリュームのキャッシュ 7
ボリュームキャッシュに関するよくある質問 8
ボリュームキャッシュを使用する 9
ボリュームキャッシュの使用の概要 9
ボリュームキャッシュを使用してキャッシュを作成する 9
ボリュームキャッシュのランディングページからの手順 9
NetAppコンソールシステムページからの手順 11
キャッシュを管理する 13
キャッシュの詳細を表示 13
キャッシュを編集する 14
別のキャッシュエクスポートポリシーを割り当てる 14
キャッシュのサイズを変更する 14
キャッシュを削除する 15
監査ページでボリューム キャッシュ ジョブを監視する 15
知識とサポート 16

サポートに登録する . . . 16
サポート登録の概要 . . . 16
NetAppサポートのためにBlueXPを登録する . . . 16
Cloud Volumes ONTAPサポートに NSS 認証情報を関連付ける . . . 19
ヘルプを受ける . . . 20
クラウドプロバイダーのファイルサービスのサポートを受ける . . . 20
セルフサポートオプションを使用する . . . 21
NetAppサポートでケースを作成する . . . 21
サポートケースを管理する（プレビュー） . . . 23
法律上の表示 . . . 26
著作権 . . . 26
商標 . . . 26
特許 . . . 26
プライバシー ポリシー . . . 26
オープンソース . . . 26

ボリュームキャッシュ

リリース ノート

ボリュームキャッシュの新機能

ボリューム キャッシュの新機能について説明します。

2025年10月6日

BlueXP volume cachingはボリュームキャッシュになりました

BlueXP volume cachingの名前がボリューム キャッシュに変更されました。

NetAppコンソールの左側のナビゲーション バーから **Mobility** > **Volume caching** を選択してアクセスできます。

BlueXPは**NetApp**コンソールになりました

NetAppコンソールは、強化され再構築されたBlueXP基盤上に構築され、オンプレミスとクラウド環境全体にわたるエンタープライズ グレードのNetAppストレージとNetAppデータ サービスの集中管理を提供し、リアルタイムの分析情報、ワークフローの高速化、および高度なセキュリティとコンプライアンスを備えた簡素化された管理を実現します。

変更内容の詳細については、"NetAppコンソールのリリースノート" 。

2023年6月4日

BlueXP volume caching

ONTAP 9 ソフトウェアの機能であるBlueXP volume cachingは、ファイル配布を簡素化し、リソースをユーザーやコンピューティング リソースの場所に近づけることで WAN の遅延を短縮し、WAN 帯域幅のコストを削減するリモート キャッシング機能です。ボリューム キャッシュは、リモートの場所に永続的な書き込み可能なボリュームを提供します。 BlueXP volume cachingを使用すると、データへのアクセスを高速化したり、頻繁にアクセスされるボリュームのトラフィックを軽減したりできます。キャッシュ ボリュームは、特にクライアントが同じデータに繰り返しアクセスする必要がある場合など、読み取り集中型のワークロードに最適です。

BlueXP volume cachingを使用すると、作業環境としてAmazon FSx for NetApp ONTAP、 Cloud Volumes ONTAP、オンプレミスなど、クラウド向けのキャッシング機能を利用できます。

"ボリュームキャッシュの詳細" 。

ボリュームキャッシュの既知の制限

既知の制限事項では、このリリースのサービスでサポートされていない、または正しく相互運用されないプラットフォーム、デバイス、または機能が特定されます。

キャッシュエクスポートポリシールールのコピーに関する制限

次の状況では、キャッシュ エクスポート ポリシー ルールはキャッシュ ボリュームにコピーされません。

- ソースボリュームのシステムがAmazon FSx for NetApp ONTAPまたはCloud Volumes ONTAPであり、キャッシュボリュームがONTAP 9.10.1 以前である場合。
- ソース ボリュームのシステムがONTAPの任意のバージョンであり、キャッシュ ボリュームがONTAP 9.10.1 以前である場合。

回避策: キャッシュ ボリュームのルールを手動で作成する必要があります。

同じ名前のストレージ**VM**のキャッシュ作成が失敗する

ソース クラスターと宛先クラスターが同じ名前のストレージ VM を使用する場合、キャッシュは作成されません。

回避策: ソース ストレージ VM とターゲット ストレージ VM に異なる名前を使用します。

新しいエクスポート ポリシーまたは最近編集されたエクスポート ポリシーの表示が遅れる

キャッシュを作成するときに、最近作成または編集されたエクスポート ポリシーがリストに表示されない場合があります。

回避策: 数分後に再試行してください。

宛先で**CIFS**プロトコルのみが有効になっている場合、キャッシュの作成は失敗します

ソース クラスタまたは宛先クラスタにONTAP 9.10.1 以前があり、宛先クラスタで CIFS プロトコルのみが有効になっている場合、キャッシュの作成は失敗します。

回避策: ONTAP 9.11.1 以降を実行しているか、CIFS プロトコルと NFS プロトコルの両方が設定されている宛先クラスタを使用します。

始めましょう

ボリュームキャッシュについて学ぶ

ONTAP 9 ソフトウェアの機能であるボリューム キャッシュは、ファイル配布を簡素化し、リソースをユーザーやコンピューティング リソースの場所に近づけることで WAN の遅延を短縮し、WAN 帯域幅のコストを削減するリモート キャッシュ機能です。ボリューム キャッシュは、リモートの場所に永続的な書き込み可能なボリュームを提供します。ボリューム キャッシュを使用すると、データへのアクセスを高速化したり、頻繁にアクセスされるボリュームのトラフィックを軽減したりできます。キャッシュ ボリュームは、特にクライアントが同じデータに繰り返しアクセスする必要がある場合など、読み取り集中型のワークロードに最適です。

ボリューム キャッシングを使用すると、作業環境として、具体的にはAmazon FSx for NetApp ONTAP、Cloud Volumes ONTAP、オンプレミスのクラウドのキャッシング機能を利用できます。

ボリューム キャッシュにより、ブランチ オフィスから企業のデータセットへのアクセスも可能になります。クラスター内の複数のコントローラーから頻繁にアクセスする必要があるデータである「ホット データ」を提供することで、主要なアプリケーションに提供されるパフォーマンスを向上させることができます。さらに、世界中の複数の場所にいるユーザーのローカルにホット データをキャッシュすることで、集中管理されたデータセットへの同時アクセスを可能にし、ホット データへのアクセス時の応答時間を短縮して、ユーザーのコラボレーションを強化できます。

NetAppコンソール

ボリューム キャッシュには、 NetAppコンソールからアクセスできます。

NetAppコンソールは、オンプレミスとクラウド環境全体にわたるエンタープライズ グレードのNetAppストレージとデータ サービスの集中管理を提供します。NetAppデータ サービスにアクセスして使用するには、コンソールが必要です。管理インターフェースとして、1 つのインターフェースから多数のストレージ リソースを管理できます。コンソール管理者は、企業内のすべてのシステムのストレージとサービスへのアクセスを制御できます。

NetAppコンソールの使用を開始するためにライセンスやサブスクリプションは必要ありません。ストレージ システムまたはNetAppデータ サービスへの接続を確保するためにクラウドにコンソール エージェントを展開する必要がある場合にのみ料金が発生します。ただし、コンソールからアクセスできる一部のNetAppデータ サービスは、ライセンスまたはサブスクリプションベースです。

詳細はこちら "NetAppコンソール"。

キャッシュとは何ですか?

キャッシュは、ホストとデータのソースの間に存在する一時的な保存場所です。キャッシュの目的は、ソース データの頻繁にアクセスされる部分を、ソースからデータを取得するよりも速くデータを提供できるような方法で保存することです。キャッシュは、データが複数回アクセスされ、複数のホストによって共有される読み取り集中型の環境で最も効果を発揮します。キャッシュ システムは、データ ソースを備えたシステムよりも高速です。これは、より高速なストレージ システムと、キャッシュ ストレージ スペースがホストに近いことによって実現されます。

ボリュームキャッシュの利点

ボリューム キャッシュには次のような利点があります。

- ハイブリッドクラウドインフラストラクチャのパフォーマンスを高速化
- あるクラウド プロバイダーから別のクラウド プロバイダーにデータをキャッシュすることでクラウド サイロを排除します。
- 保管コストの削減
- 地理的な場所を越えてコラボレーション
- 変化するIT環境に迅速に適応する能力
- クラウドでホストされるオンデマンドまたはサブスクリプションベースのボリューム キャッシュ

ボリュームキャッシュでできること

ボリューム キャッシュにより、いくつかのNetAppテクノロジーを最大限に活用して、次の目標を達成できます。

- あるクラウドプロバイダーから別のクラウドプロバイダーにデータをキャッシュする
- キャッシュエクスポートポリシーの表示と編集
- 既存のキャッシュのサイズを変更する
- キャッシュを削除する

料金

NetApp はボリューム キャッシュに対して料金を請求しませんが、適用されるデータの受信および送信料金についてはクラウド プロバイダーに確認する必要があります。

ライセンス

ボリューム キャッシュには特別なONTAPライセンスは必要ありません。

ボリュームキャッシュの仕組み

キャッシュ ボリュームは、ソース ボリュームによってバックアップされる、まばらにデータが配置されたボリュームです。キャッシュ ボリュームは、ソース ボリュームと同じクラスター上に配置することも、別のクラスター上に配置することもできます。

キャッシュ ボリュームは、すべてのデータがキャッシュ ボリューム内にあることを必要とせずに、ソース ボリュームのデータにアクセスできるようにします。キャッシュ ボリューム内のデータ ストレージは、ホットデータ (作業データまたは最近使用されたデータ) のみを保持することによって効率的に管理されます。

ボリューム キャッシュは、クライアントが要求したデータがキャッシュ ボリュームに含まれている場合に要求を読み取ります。それ以外の場合、ボリューム キャッシュ サービスはソース ボリュームからデータを要求し、クライアント要求に応える前にデータを保存します。その後のデータ要求はキャッシュ ボリュームから直接提供されます。これにより、最初のリクエスト後は、データがネットワークを介して移動したり、過負荷のシステムから提供される必要がなくなるため、同じデータに繰り返しアクセスする場合のパフォーマンスが向上します。

ボリュームキャッシュの前提条件

まず、運用環境、ログイン、ネットワーク アクセス、Web ブラウザーの準備状況を確認します。

ボリューム キャッシュを使用するには、環境がすべての要件を満たしていることを確認する必要があります。

- ONTAP 9.8以降
  - クラスタ管理者ONTAP権限
  - クラスタ上のクラスタ間LIF
- NetAppコンソールの場合:
  - コンソール エージェントは、 NetAppコンソールで設定する必要があります。すべてのソース クラスターとターゲット クラスターは同じコンソール エージェント上にある必要があります。参照 "BlueXP クイックスタート"そして "コンソールエージェントについて学ぶ"。
  - 作業環境を整える必要があります。
  - クラスターは、ターゲットの作業環境にオンまたは低下した状態で追加する必要があります。
  - 標準的なNetAppコンソールの要件。参照 "NetAppコンソールの要件"。

ボリュームキャッシュのクイックスタート

ボリューム キャッシュを開始するために必要な手順の概要を次に示します。各ステップ内のリンクをクリックすると、詳細情報を提供するページに移動します。

1 前提条件を確認する

"環境がこれらの要件を満たしていることを確認してください" 。

2 ボリュームキャッシュを設定する

"vlumeキャッシュを設定する" 。

3 次は何?

次に行うことは次のとおりです。

- "キャッシュを作成する" 。
- "キャッシュの管理、編集、サイズ変更、削除" 。
- "ボリュームキャッシュ操作を監視する" 。

ボリュームキャッシュを設定する

ボリューム キャッシュを使用するには、いくつかの手順を実行して設定します。

- レビュー"前提条件"環境の準備ができていることを確認します。
- コンソール エージェントを作成します。
- ボリューム キャッシュをサポートできるシステムを作成します。

NetAppコンソールでコンソールエージェントを作成する

次のステップは、 NetAppコンソールにコンソール エージェントを作成することです。

ボリュームキャッシュを使用する前にコンソールエージェントを作成するには、 NetAppコンソールのドキュメントを参照してください。 "コンソールエージェントを作成する方法" 。

システムを作成する

まだ行っていない場合は、ソースとターゲットのシステムを作成する必要があります。

- "Amazon FSx for ONTAPシステムを作成する"
- "AWSでCloud Volumes ONTAPを起動"
- "AzureでCloud Volumes ONTAPを起動する"
- "GCP でCloud Volumes ONTAP を起動"
- "既存のCloud Volumes ONTAPシステムを追加する"
- "ONTAPクラスタの検出"

アクセスボリュームのキャッシュ

ボリューム キャッシュ オプションにアクセスするには、 NetAppコンソールを使用します。

NetAppコンソールにログインするには、 NetAppサポート サイトの資格情報を使用できます。 "ログインについて詳しくはこちら" 。

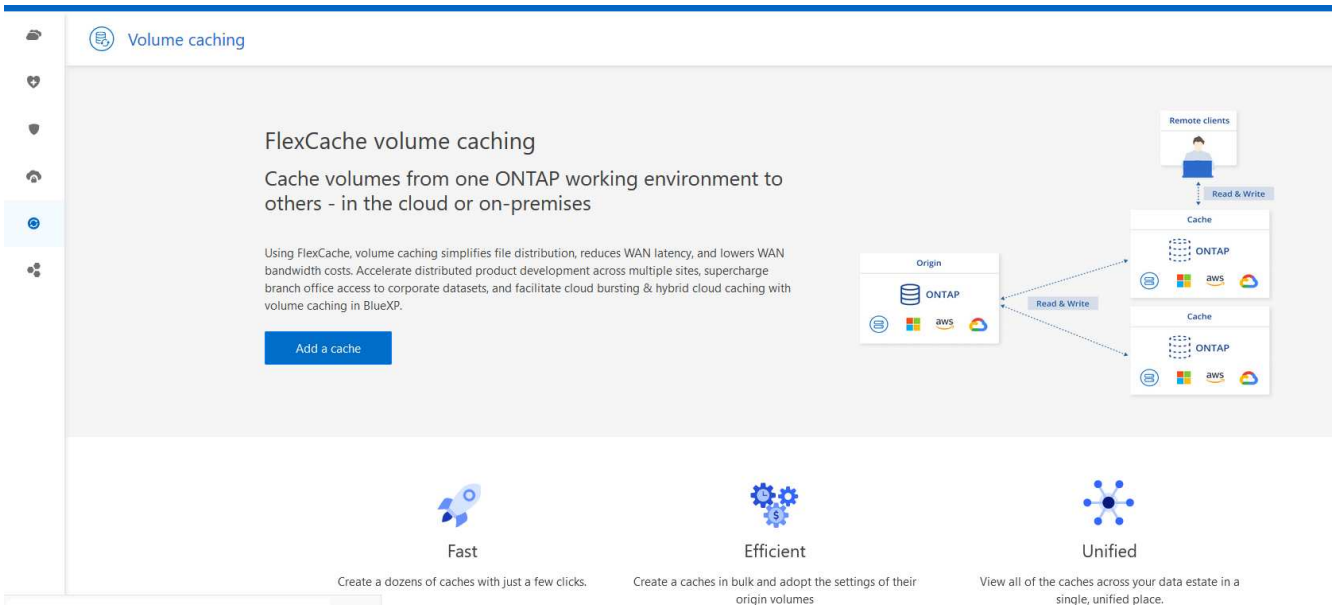
手順

1. ウェブブラウザを開いて、 "NetAppコンソール" 。

   NetAppコンソールのログイン ページが表示されます。

2. コンソールにログインします。
3. コンソールの左側のナビゲーションから、モビリティ > ボリューム キャッシュ を選択します。

   ボリューム キャッシュ ダッシュボードが表示されます。



コンソール エージェントが設定されていない場合は、コンソール エージェントの追加 オプションが表示されます。。 "ボリュームキャッシュを設定する" 。

ボリュームキャッシュに関するよくある質問

質問に対する簡単な回答を探している場合は、この FAQ が役立ちます。

ボリューム キャッシュ **URL** とは何ですか**?** URL については、ブラウザで次のように入力します。 "https://console.netapp.com/" BlueXPコンソールにアクセスします。

*ボリューム キャッシュを使用するにはライセンスが必要ですか?*NetAppライセンス ファイル (NLF) は必要ありません。

*ボリューム キャッシュを有効にするにはどうすればいいですか?*ボリューム キャッシュを有効にする必要はありません。ボリューム キャッシュ オプションは、 NetAppコンソールの左側のナビゲーションに自動的に表示されます。

ボリュームキャッシュを使用する

ボリュームキャッシュの使用の概要

ボリューム キャッシュを使用すると、次の目標を達成できます。

- "キャッシュを作成する" 。
- "キャッシュの詳細を表示" 。
- "エクスポートポリシーを変更してキャッシュのサイズを変更する" 。
- "キャッシュを削除する" 。
- "ボリュームキャッシュ操作を監視する"NetAppコンソールの監査ページ。

ボリュームキャッシュを使用してキャッシュを作成する

ボリューム キャッシュは、リモートの場所に永続的な書き込み可能なボリュームを提供します。ボリューム キャッシュを使用すると、データへのアクセスを高速化したり、頻繁にアクセスされるボリュームのトラフィックを軽減したりできます。キャッシュされたボリュームは、特にクライアントが同じデータに繰り返しアクセスする必要がある場合など、読み取り集中型のワークロードに最適です。ソースシステムの 1 つ以上のソースボリュームをキャッシュソースとして使用して、 Amazon FSx for ONTAP、 Cloud Volumes ONTAP、オンプレミスONTAP間のボリュームキャッシュを作成できます。次に、キャッシュ ボリュームのストレージ仮想マシンを選択します。

キャッシュされたボリュームは、ソース ボリュームと同じクラスター上にも、異なるクラスター上にも配置できます。キャッシュするために選択するボリュームは同じストレージ VM に属している必要があり、ストレージ VM は同じプロトコルを使用する必要があります。

ボリュームがキャッシュに適さない場合は、選択できないようにグレー表示されます。

キャッシュされたボリュームのサイズを、ソース ボリュームのサイズのパーセンテージとして入力できます。

キャッシュされたボリュームによって使用される IPSpace は、ソース ストレージ VM によって使用される IPSpace によって異なります。

キャッシュされたボリューム名は、 `_cache`元のボリューム名に追加されます。

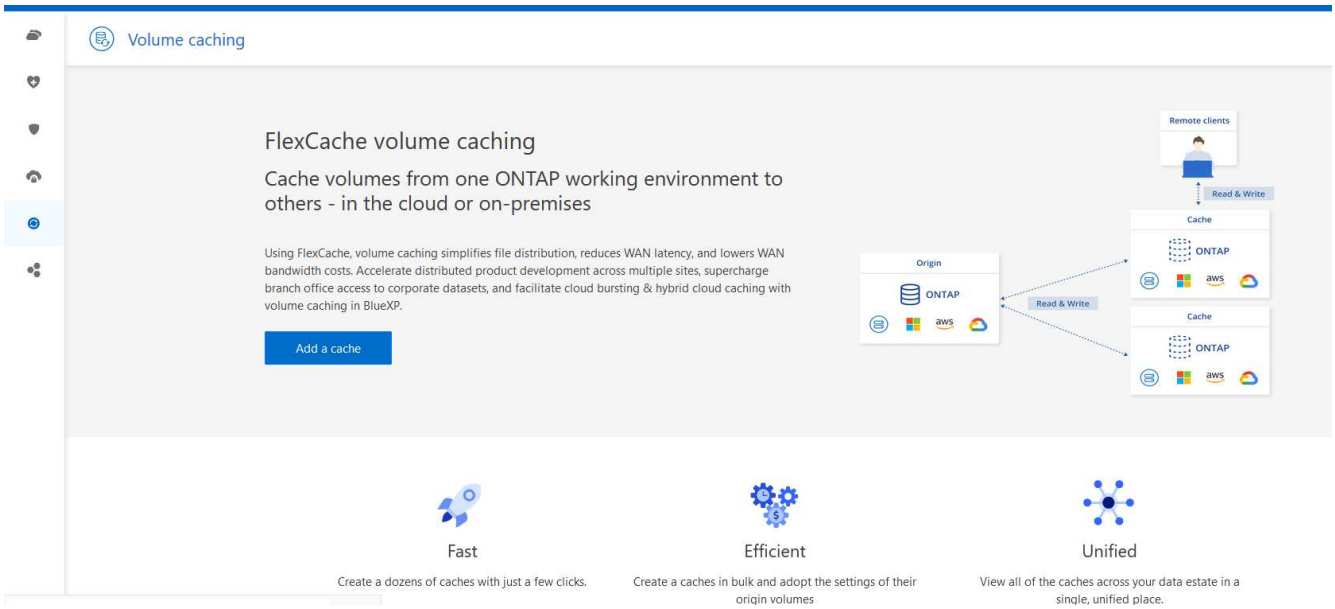
ボリュームキャッシュのランディングページからの手順

1. NetAppコンソールにログインします。
2. 左側のナビゲーションから モビリティ > ボリューム キャッシュ を選択します。

   ボリューム キャッシュのダッシュボード ページが表示されます。ボリューム キャッシュ オプションを初めて使用する場合、キャッシュ情報を追加する必要があります。その後、代わりにダッシュボードが表示

され、キャッシュに関するデータが表示されます。

NetAppコンソール エージェントをまだ設定していない場合は、[キャッシュの追加] オプションではなく、[コンソール エージェントの追加] オプションが表示されます。この場合、まずコンソール エージェントを設定する必要があります。参照 "NetAppコンソールのクイックスタート"。



3. *キャッシュを追加*を選択します。
4. キャッシュ データ ページで、システム ソース キャッシュとターゲット キャッシュを選択し、キャッシュ ウィザードの開始 を選択します。
5. 「キャッシュの構成」ページで、キャッシュするボリュームを選択します。

   最大50巻まで選択できます。

6. VM の詳細またはボリューム サイズをさらに変更するには、ページを下にスクロールします。
7. キャッシュ ボリュームのサイズを、ソース ボリュームのサイズのパーセンテージとして入力します。

   経験則としては、キャッシュ ボリュームのサイズはソース ボリュームのサイズの約 15% にする必要があります。

8. キャッシュ アクセス ボックスをオンにして、NFS エクスポート ポリシー ルールと SMB/CIFS 共有構成をソース ボリュームからターゲット キャッシュ ボリュームに複製します。

   その後、ソース ボリューム内の NFS エクスポート ポリシー ルールと SMB/CIFS 共有がキャッシュ ボリュームに複製されます。キャッシュ ストレージ VM で SMB/CIFS プロトコルが有効になっていない場合、SMB/CIFS 共有はレプリケートされません。

9. 必要に応じて、キャッシュ名のプレフィックスを入力します。

   接尾辞 `_cache`次の形式で名前に追加されます： `<user-specified prefix>_<source volume name>_cache`

10. *キャッシュを作成*を選択します。

    新しいキャッシュがキャッシュ リストに表示されます。キャッシュボリューム名が表示されます `_cache`ソースボリューム名の接尾辞として。

11. 操作の進行状況を確認するには、 NetAppコンソール メニューから [管理] > [監査] を選択します。

NetAppコンソールシステムページからの手順

1. NetAppコンソール システム ページから、作業環境を選択します。
2. ソース システムを選択し、宛先にドラッグしま

す。

3. *ボリューム キャッシュ*を選択します。

    これにより、ソースから宛先へのキャッシュ ボリュームが作成されます。

4. 右側のペインの「キャッシュ オプション」ボックスで、「追加」を選択します。
5. キャッシュ データ ページで、キャッシュするシステムを選択し、キャッシュ ウィザードの開始 を選択しま

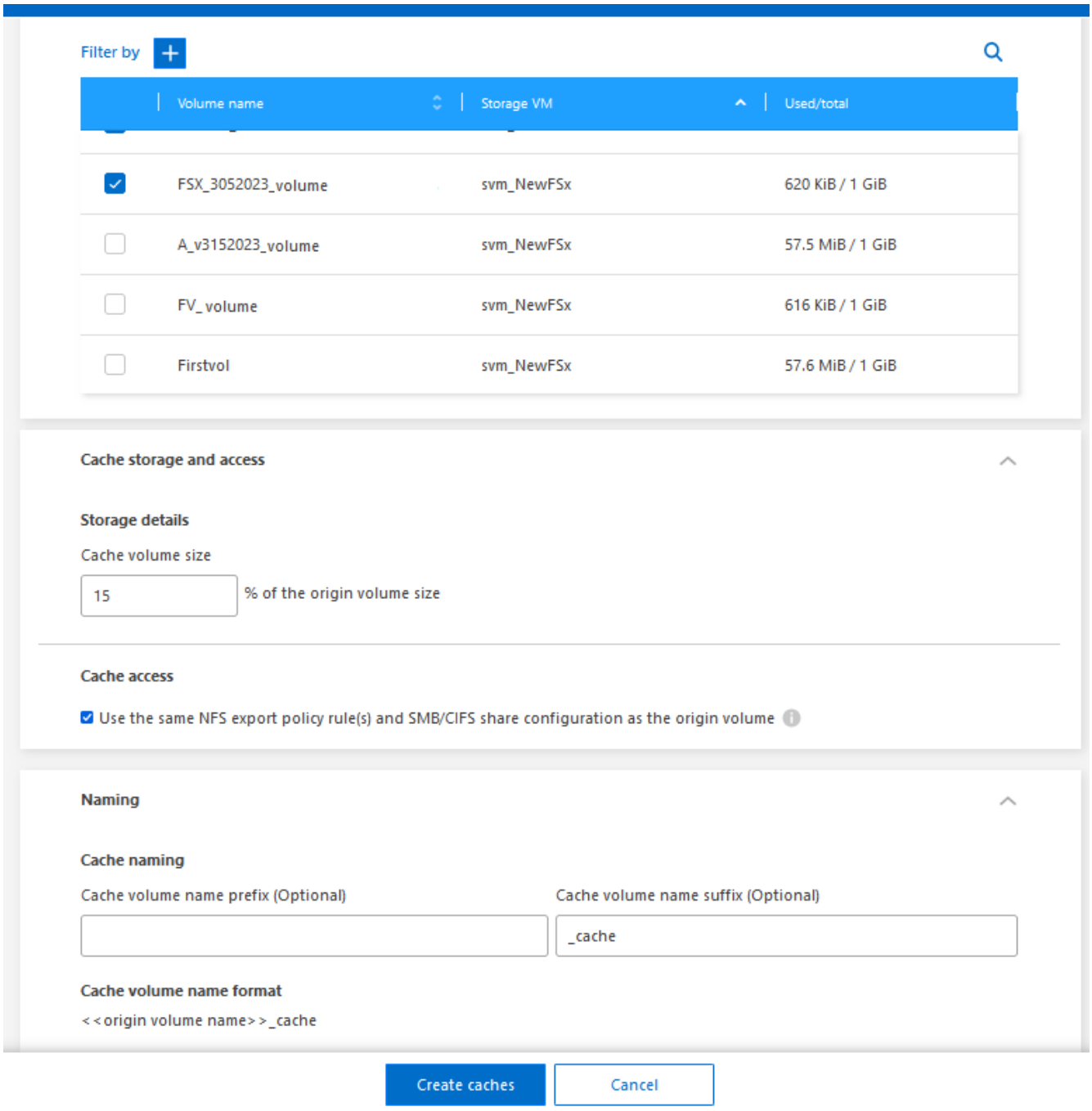
す。

6. 「キャッシュの構成」ページで、キャッシュするボリュームを選択します。

   最大50巻まで選択できます。

7. VM の詳細またはボリューム サイズをさらに変更するには、ページを下にスクロールします。
8. キャッシュ ボリュームのサイズを、ソース ボリュームのサイズのパーセンテージとして入力します。

   経験則としては、キャッシュ ボリュームのサイズはソース ボリュームのサイズの約 15% にする必要があります。



9. キャッシュ アクセス ボックスをオンにして、NFS エクスポート ポリシー ルールと SMB/CIFS 共有構成をソース ボリュームからターゲット キャッシュ ボリュームに複製します。

その後、ソース ボリューム内の NFS エクスポート ポリシー ルールと SMB/CIFS 共有がキャッシュ ボリュームに複製されます。キャッシュ ストレージ VM で SMB/CIFS プロトコルが有効になっていない場合、SMB/CIFS 共有はレプリケートされません。

10. 必要に応じて、キャッシュ名のプレフィックスを入力します。

    接尾辞 _cache`次の形式で名前に追加されます： `<user-specified prefix>_<source volume name>_cache

11. *キャッシュを作成*を選択します。

    新しいキャッシュがキャッシュ リストに表示されます。キャッシュボリューム名が表示されます `_cache`ソースボリューム名の接尾辞として。

12. 操作の進行状況を確認するには、 NetAppコンソール メニューから [管理] > [監査] を選択します。

キャッシュを管理する

キャッシュを編集したり、エクスポート ポリシーを変更したり、キャッシュのサイズを変更したり、キャッシュを削除したりできます。

ボリューム キャッシュを使用すると、次の目標を達成できます。

- キャッシュの詳細を表示します。
- キャッシュに別のエクスポート ポリシーを割り当てます。
- ボリューム キャッシュを編集し、サイズなどを変更します。編集には他のプロパティを表示および変更するオプションがあり、今後のリリースでは編集にさらに多くのプロパティが追加される予定です。
- 元のボリューム サイズのパーセンテージに基づいて既存のキャッシュのサイズを変更します。
- キャッシュを削除します。

キャッシュの詳細を表示

キャッシュごとに、元のボリューム、作業環境、キャッシュ ボリュームなどを確認できます。

手順

1. NetAppコンソールの左側のナビゲーションから、モビリティ > ボリューム キャッシュ を選択します。

    宛先システムで作成されたキャッシュ ボリュームのリストを表示できます。キャッシュのリストにはキャッシュの詳細が表示されます。

2. リストをフィルタリングするには、「フィルタリング **+**」オプションを選択します。
3. 行を選択し、右側の*アクション…*オプションを選択します。
4. *詳細の表示と編集*を選択します。
5. 詳細を確認します。

キャッシュを編集する

キャッシュの名前、ボリューム サイズ、エクスポート ポリシーを変更できます。

手順

1. NetAppコンソールの左側のナビゲーションから、モビリティ > ボリューム キャッシュ を選択します。
2. 行を選択し、右側の*アクション…*オプションを選択します。
3. *詳細の表示と編集*を選択します。
4. [基本構成] タブで、必要に応じて、キャッシュ名とキャッシュ ボリューム サイズを変更します。
5. 必要に応じて、[キャッシュ アクセス] タブを展開し、次の値を変更します。
   a. マウント パス。
   b. 既存のものとは異なる輸出政策。
6. SMB/CIFS 共有の詳細またはエクスポート ポリシー ルールを変更するには、オプションをクリックしてNetApp System Manager にアクセスします。
7. *保存*を選択します。

別のキャッシュエクスポートポリシーを割り当てる

キャッシュに異なるエクスポート ポリシーを割り当てることができます。

ソース エクスポート ポリシー ルールをターゲット クラスターに適用する必要があります。

既存のエクスポート ポリシーをキャッシュに割り当てることができます。エクスポート ポリシー ルールを変更することはできません。エクスポート ポリシーを変更する必要がある場合は、NetApp System Manager を使用できます。

手順

1. NetAppコンソールの左側のナビゲーションから、モビリティ > ボリューム キャッシュ を選択します。
2. 行を選択し、右側の*アクション…*オプションを選択します。
3. *エクスポート ポリシーの変更*を選択します。
4. キャッシュに割り当てるエクスポート ポリシーを選択します。
5. *保存*を選択します。

キャッシュのサイズを変更する

ソース ボリュームのパーセンテージに基づいて、キャッシュ ボリュームのサイズを変更できます。

手順

1. NetAppコンソールの左側のナビゲーションから、モビリティ > ボリューム キャッシュ を選択します。
2. 行を選択し、右側の*アクション…*オプションを選択します。
3. *サイズ変更*を選択します。
4. 元のボリューム サイズの新しいパーセンテージを入力します。

キャッシュ ボリュームのサイズは新しいパーセンテージに合わせて変更されます。

5. *保存*を選択します。

キャッシュを削除する

キャッシュが不要になった場合は削除できます。これにより、ボリューム キャッシュ関係が削除され、ターゲット ボリューム キャッシュが削除されます。

手順

1. NetAppコンソールの左側のナビゲーションから、モビリティ > ボリューム キャッシュ を選択します。
2. 行を選択し、右側の*アクション…*オプションを選択します。
3. *削除*を選択します。
4. ボックスにチェックを入れてください。
5. *削除*を選択します。

監査ページでボリューム キャッシュ ジョブを監視する

NetAppコンソールの監査ページを使用して、すべてのボリューム キャッシュ ジョブを監視し、その進行状況を確認できます。

手順

1. NetAppコンソール メニューから、管理 > 監査 を選択します。
2. 必要に応じて、時間、サービス、アクション、エージェント、リソース、ユーザー、またはステータスでフィルタリングします。
3. すべてのキャッシュと操作を調べます。

知識とサポート

サポートに登録する

BlueXPおよびそのストレージ ソリューションとサービスに固有のテクニカル サポートを受けるには、サポート登録が必要です。Cloud Volumes ONTAPシステムの主要なワークフローを有効にするには、サポート登録も必要です。

サポートに登録しても、クラウド プロバイダー ファイル サービスに対するNetAppサポートは有効になりません。クラウド プロバイダーのファイル サービス、そのインフラストラクチャ、またはサービスを使用するソリューションに関連するテクニカル サポートについては、その製品のBlueXPドキュメントの「ヘルプの取得」を参照してください。

- "Amazon FSx for ONTAP"
- "Azure NetApp Files"
- "Google Cloud NetApp Volumes"

サポート登録の概要

サポート資格を有効にするには、次の 2 つの登録形式があります。

- BlueXPアカウントのシリアル番号を登録します (BlueXPのサポート リソース ページにある 20 桁の 960xxxxxxxxx シリアル番号)。

  これは、BlueXP内のすべてのサービスに対する単一のサポート サブスクリプション ID として機能します。各BlueXPアカウント レベルのサポート サブスクリプションを登録する必要があります。

- クラウド プロバイダーのマーケットプレイスで、サブスクリプションに関連付けられたCloud Volumes ONTAPシリアル番号を登録します (これらは 20 桁の 909201xxxxxxxx シリアル番号です)。

  これらのシリアル番号は一般に *PAYGO* シリアル番号 と呼ばれ、 Cloud Volumes ONTAP の展開時にBlueXPによって生成されます。

両方のタイプのシリアル番号を登録すると、サポート チケットの開設やケースの自動生成などの機能が有効になります。登録は、以下の説明に従ってNetAppサポート サイト (NSS) アカウントをBlueXPに追加することで完了します。

NetAppサポートのために**BlueXP**を登録する

サポートに登録し、サポート資格を有効にするには、 BlueXP組織 (またはアカウント) 内の 1 人のユーザーがNetAppサポート サイト アカウントをBlueXPログインに関連付ける必要があります。NetAppサポートに登録する方法は、 NetAppサポート サイト (NSS) アカウントをすでにお持ちかどうかによって異なります。

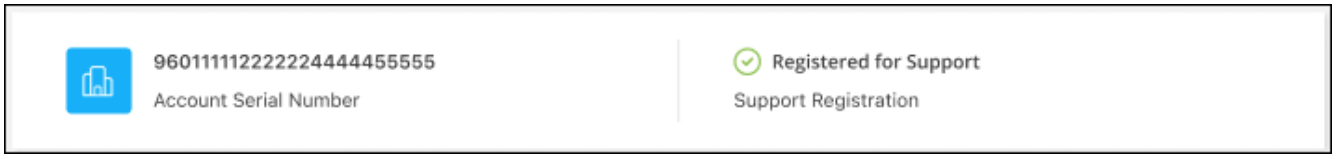
NSSアカウントをお持ちの既存顧客

NSS アカウントをお持ちのNetApp のお客様の場合は、 BlueXPを通じてサポートに登録するだけです。

手順

1. BlueXPコンソールの右上にある設定アイコンを選択し、*資格情報*を選択します。
2. *ユーザー資格情報*を選択します。
3. **NSS** 資格情報の追加 を選択し、 NetAppサポート サイト (NSS) の認証プロンプトに従います。
4. 登録プロセスが成功したことを確認するには、[ヘルプ] アイコンを選択し、[サポート] を選択します。

   リソース ページには、 BlueXP組織がサポートに登録されていることが表示されます。



   他のBlueXPユーザーは、 NetAppサポート サイト アカウントをBlueXPログインに関連付けていない場合、同じサポート登録ステータスを表示しないことに注意してください。ただし、これはBlueXP組織がサポートに登録されていないことを意味するものではありません。組織内の 1 人のユーザーがこれらの手順を実行すれば、組織は登録されます。

既存の顧客だが**NSS**アカウントがない

既存のNetApp顧客であり、既存のライセンスとシリアル番号を持っているものの、NSS アカウントを持っていない場合は、NSS アカウントを作成し、それをBlueXPログインに関連付ける必要があります。

手順

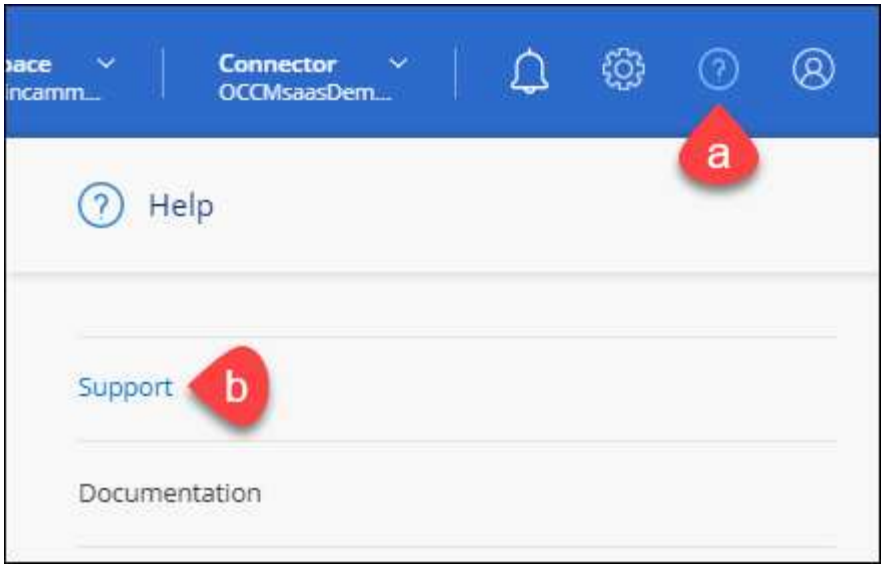
1. NetAppサポートサイトのアカウントを作成するには、 "NetAppサポートサイト ユーザー登録フォーム"
   a. 適切なユーザー レベル (通常は * NetApp顧客/エンド ユーザー*) を選択してください。
   b. 上記で使用したBlueXPアカウントのシリアル番号 (960xxxx) を必ずシリアル番号フィールドにコピーしてください。これにより、アカウント処理が高速化されます。
2. 以下の手順を完了して、新しいNSSアカウントをBlueXPログインに関連付けます。NSSアカウントをお持ちの既存顧客 。

NetAppの新着情報

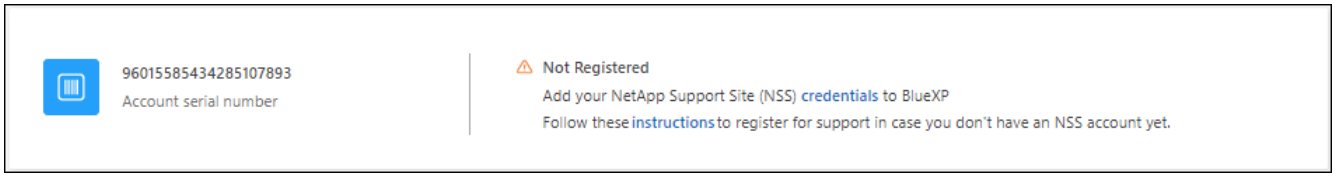
NetAppを初めて使用し、NSS アカウントをお持ちでない場合は、以下の手順に従ってください。

手順

1. BlueXPコンソールの右上にあるヘルプ アイコンを選択し、サポート を選択します。



2. サポート登録ページからアカウント ID シリアル番号を見つけます。



3. 移動先 "NetAppのサポート登録サイト"私は登録済みの**NetApp**顧客ではありません を選択します。
4. 必須フィールド（赤いアスタリスクが付いているフィールド）に入力します。
5. 製品ライン フィールドで、**Cloud Manager** を選択し、該当する請求プロバイダーを選択します。
6. 上記の手順 2 からアカウントのシリアル番号をコピーし、セキュリティ チェックを完了して、NetApp のグローバル データ プライバシー ポリシーを読んだことを確認します。

   この安全な取引を完了するために、指定されたメールボックスに電子メールが直ちに送信されます。検証メールが数分以内に届かない場合は、必ずスパム フォルダーを確認してください。

7. メール内からアクションを確認します。

   確認すると、リクエストがNetAppに送信され、 NetAppサポート サイトのアカウントを作成することが推奨されます。

8. NetAppサポートサイトのアカウントを作成するには、 "NetAppサポートサイト ユーザー登録フォーム"
   a. 適切なユーザー レベル (通常は * NetApp顧客/エンド ユーザー*) を選択してください。
   b. 上記で使用したアカウントのシリアル番号 (960xxxx) を必ずシリアル番号フィールドにコピーしてください。これにより処理速度が向上します。

終了後の操作

このプロセス中に、 NetAppから連絡が来るはずです。これは、新規ユーザー向けの 1 回限りのオンボーディング演習です。

NetAppサポートサイトのアカウントを取得したら、以下の手順を実行してアカウントをBlueXPログインに関連付けます。NSSアカウントをお持ちの既存顧客 。

Cloud Volumes ONTAPサポートに NSS 認証情報を関連付ける

Cloud Volumes ONTAPの次の主要なワークフローを有効にするには、 NetAppサポート サイトの認証情報をBlueXP組織に関連付ける必要があります。

- 従量課金制のCloud Volumes ONTAPシステムをサポート対象として登録する

  システムのサポートを有効にし、 NetAppテクニカル サポート リソースにアクセスするには、NSS アカウントを提供する必要があります。

- BYOL（個人ライセンス使用）時にCloud Volumes ONTAP を導入する

  BlueXP がライセンス キーをアップロードし、購入した期間のサブスクリプションを有効にするには、NSS アカウントを提供する必要があります。これには、期間更新の自動更新が含まれます。

- Cloud Volumes ONTAPソフトウェアを最新リリースにアップグレードする

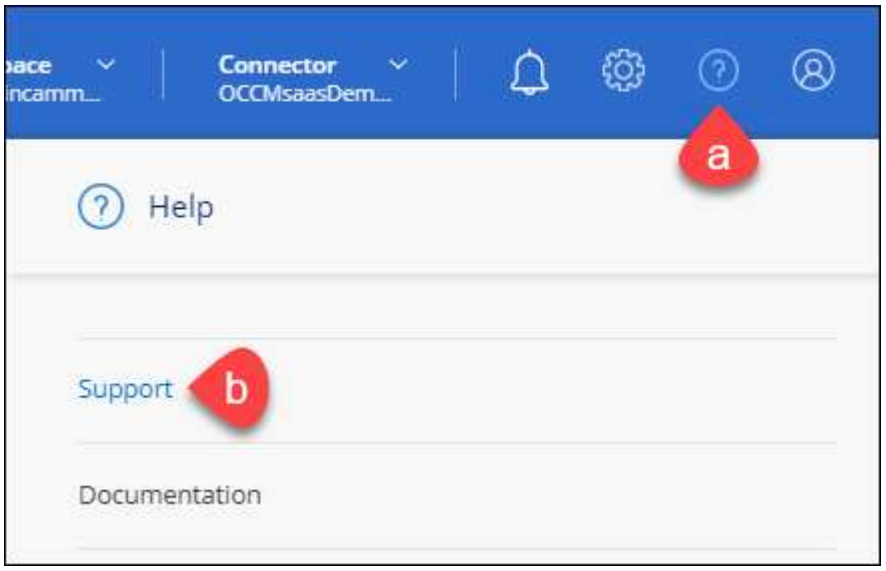
NSS 資格情報をBlueXP組織に関連付けることは、 BlueXPユーザー ログインに関連付けられている NSS アカウントとは異なります。

これらの NSS 資格情報は、特定のBlueXP組織 ID に関連付けられています。BlueXP組織に属するユーザーは、サポート **> NSS** 管理 からこれらの資格情報にアクセスできます。

- 顧客レベルのアカウントをお持ちの場合は、1 つ以上の NSS アカウントを追加できます。
- パートナー アカウントまたは再販業者アカウントをお持ちの場合は、1 つ以上の NSS アカウントを追加できますが、顧客レベルのアカウントと一緒に追加することはできません。

手順

1. BlueXPコンソールの右上にあるヘルプ アイコンを選択し、サポート を選択します。



2. *NSS管理 > NSSアカウントの追加*を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、[続行] を選択して、Microsoft ログイン ページにリダイレクトします。

   NetApp は、サポートとライセンスに固有の認証サービスの ID プロバイダーとして Microsoft Entra ID を使用します。

4. ログイン ページで、 NetAppサポート サイトに登録した電子メール アドレスとパスワードを入力して、認証プロセスを実行します。

   これらのアクションにより、 BlueXP はライセンスのダウンロード、ソフトウェア アップグレードの検証、将来のサポート登録などに NSS アカウントを使用できるようになります。

   次の点に注意してください。

   - NSS アカウントは顧客レベルのアカウントである必要があります (ゲスト アカウントや一時アカウントではありません)。顧客レベルの NSS アカウントを複数持つことができます。
   - パートナー レベルのアカウントの場合、NSS アカウントは 1 つだけ存在できます。顧客レベルの NSS アカウントを追加しようとしたときにパートナー レベルのアカウントが存在する場合は、次のエラー メッセージが表示されます。

     「異なるタイプの NSS ユーザーがすでに存在するため、このアカウントでは NSS 顧客タイプは許可されません。」

   既存の顧客レベルの NSS アカウントがあり、パートナー レベルのアカウントを追加しようとする場合も同様です。

   - ログインが成功すると、 NetApp はNSS ユーザー名を保存します。

     これは、メールにマッピングされるシステム生成の ID です。*NSS管理*ページでは、 ••• メニュー。

   - ログイン認証トークンを更新する必要がある場合は、 ••• メニュー。

     このオプションを使用すると、再度ログインするよう求められます。これらのアカウントのトークンは 90 日後に期限切れになることに注意してください。これを知らせる通知が投稿されます。

ヘルプを受ける

NetAppは、 BlueXPとそのクラウドサービスに対して、様々なサポートを提供しています。ナレッジベース（KB）記事やコミュニティフォーラムなど、充実した無料のセルフサポートオプションを24時間365日ご利用いただけます。サポート登録には、Webチケットによるリモートテクニカルサポートも含まれます。

クラウドプロバイダーのファイルサービスのサポートを受ける

クラウド プロバイダーのファイル サービス、そのインフラストラクチャ、またはサービスを使用するソリューションに関連するテクニカル サポートについては、その製品のBlueXPドキュメントの「ヘルプの取得」を参照してください。

- "Amazon FSx for ONTAP"
- "Azure NetApp Files"
- "Google Cloud NetApp Volumes"

BlueXPとそのストレージ ソリューションおよびサービスに固有のテクニカル サポートを受けるには、以下に説明するサポート オプションを使用してください。

セルフサポートオプションを使用する

以下のオプションは、24 時間 365 日無料でご利用いただけます。

- ドキュメント

  現在表示しているBlueXPドキュメント。

- "ナレッジベース"

  BlueXPナレッジベースを検索して、問題のトラブルシューティングに役立つ記事を見つけます。

- "コミュニティ"

  BlueXPコミュニティに参加して、進行中のディスカッションをフォローしたり、新しいディスカッションを作成したりしてください。

NetAppサポートでケースを作成する

上記のセルフ サポート オプションに加えて、サポートを有効にした後は、 NetAppサポート スペシャリストと協力して問題を解決することもできます。

始める前に

- *ケースの作成*機能を使用するには、まずNetAppサポート サイトの資格情報をBlueXPログインに関連付ける必要があります。 "BlueXPログインに関連付けられた資格情報を管理する方法を学びます" 。
- シリアル番号を持つONTAPシステムのケースを開く場合は、NSS アカウントがそのシステムのシリアル番号に関連付けられている必要があります。

手順

1. BlueXPで、*ヘルプ > サポート*を選択します。
2. *リソース*ページで、テクニカル サポートの下にある利用可能なオプションのいずれかを選択します。

   a. 電話で誰かと話したい場合は、「電話する」を選択してください。電話をかけることができる電話番号をリストした netapp.com のページに移動します。

   b. NetAppサポート スペシャリストとのチケットを開くには、[ケースを作成] を選択します。

      - サービス: 問題が関連付けられているサービスを選択します。たとえば、サービス内のワークフローまたは機能に関するテクニカル サポートの問題に固有の場合はBlueXP。
      - 作業環境: ストレージに該当する場合は、* Cloud Volumes ONTAP* または * On-Prem* を選択し、関連する作業環境を選択します。

        作業環境のリストは、サービスのトップバナーで選択したBlueXP組織 (またはアカウント)、プロジェクト (またはワークスペース)、およびコネクタの範囲内にあります。

      - ケースの優先度: ケースの優先度 (低、中、高、重大) を選択します。

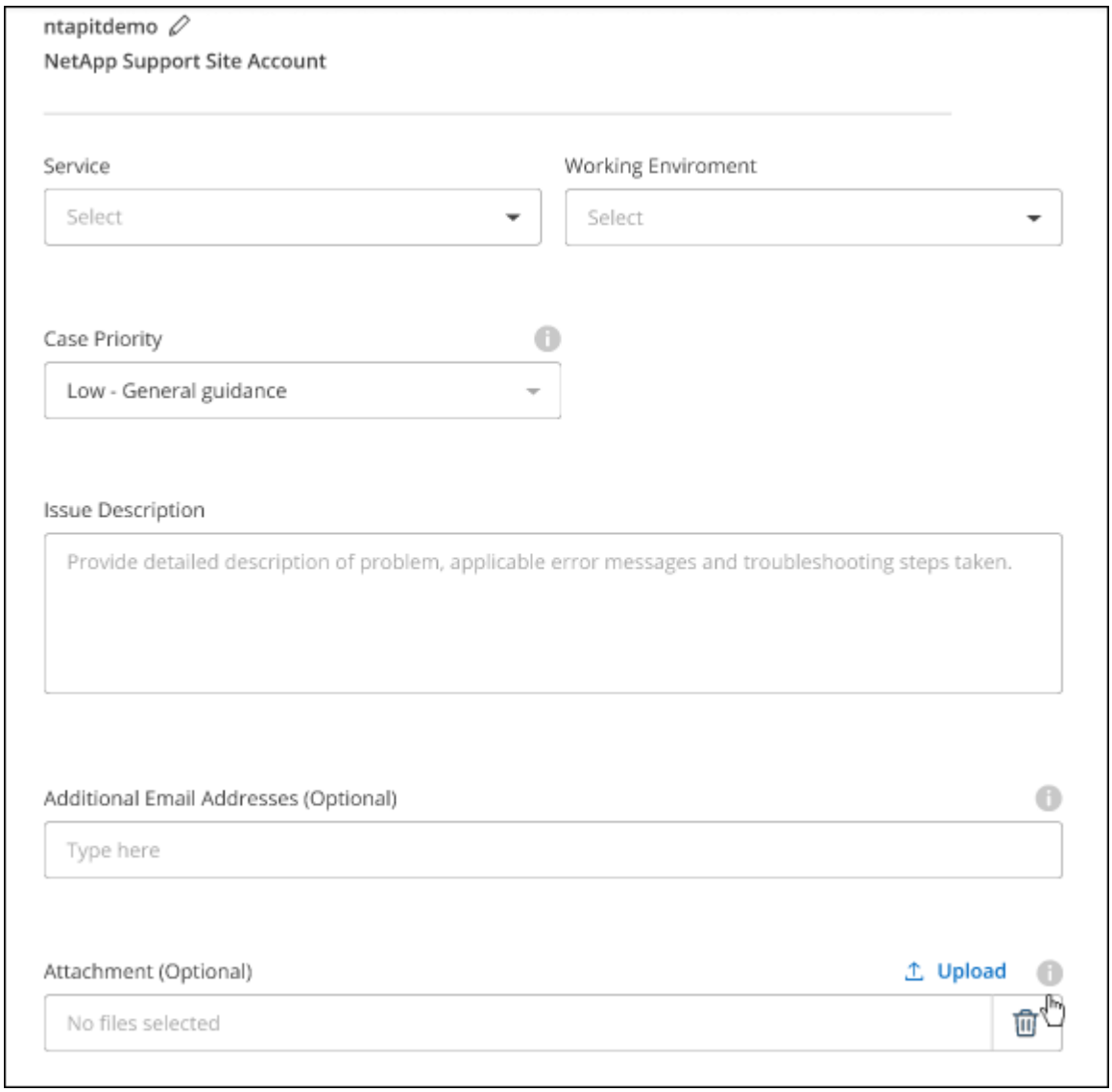
        これらの優先順位の詳細を確認するには、フィールド名の横にある情報アイコンの上にマウスを置きます。

      - 問題の説明: 該当するエラー メッセージや実行したトラブルシューティング手順など、問題の詳細

な説明を入力します。

- 追加のメールアドレス:この問題を他の人に知らせたい場合は、追加のメールアドレスを入力してください。
- 添付ファイル (オプション): 一度に 1 つずつ、最大 5 つの添付ファイルをアップロードします。

  添付ファイルはファイルごとに 25 MB までに制限されます。サポートされているファイル拡張子は、txt、log、pdf、jpg/jpeg、rtf、doc/docx、xls/xlsx、csv です。



終了後の操作

サポート ケース番号を示すポップアップが表示されます。NetAppサポート スペシャリストがお客様のケースを確認し、すぐにご連絡いたします。

サポート ケースの履歴については、設定 > タイムライン を選択し、「サポート ケースの作成」というアクションを探します。右端のボタンを使用すると、アクションを展開して詳細を表示できます。

ケースを作成しようとすると、次のエラー メッセージが表示される場合があります。

「選択したサービスに対してケースを作成する権限がありません」

このエラーは、NSS アカウントとそれに関連付けられているレコード会社が、 BlueXPアカウントのシリアル番号のレコード会社と同じではないことを意味している可能性があります (つまり、960xxxx) または作業環境のシリアル番号。次のいずれかのオプションを使用してサポートを求めることができます。

- 製品内チャットを使用する
- 非技術的なケースを提出する https://mysupport.netapp.com/site/help

サポートケースを管理する（プレビュー）

アクティブおよび解決済みのサポート ケースをBlueXPから直接表示および管理できます。NSS アカウントおよび会社に関連付けられたケースを管理できます。

ケース管理はプレビューとして利用できます。今後のリリースでは、このエクスペリエンスを改良し、機能強化を追加する予定です。製品内チャットを使用してフィードバックをお送りください。

次の点に注意してください。

- ページ上部のケース管理ダッシュボードには、次の 2 つのビューがあります。
  - 左側のビューには、指定したユーザー NSS アカウントによって過去 3 か月間に開かれたケースの合計が表示されます。
  - 右側のビューには、ユーザーの NSS アカウントに基づいて、会社レベルで過去 3 か月間に開かれたケースの合計が表示されます。

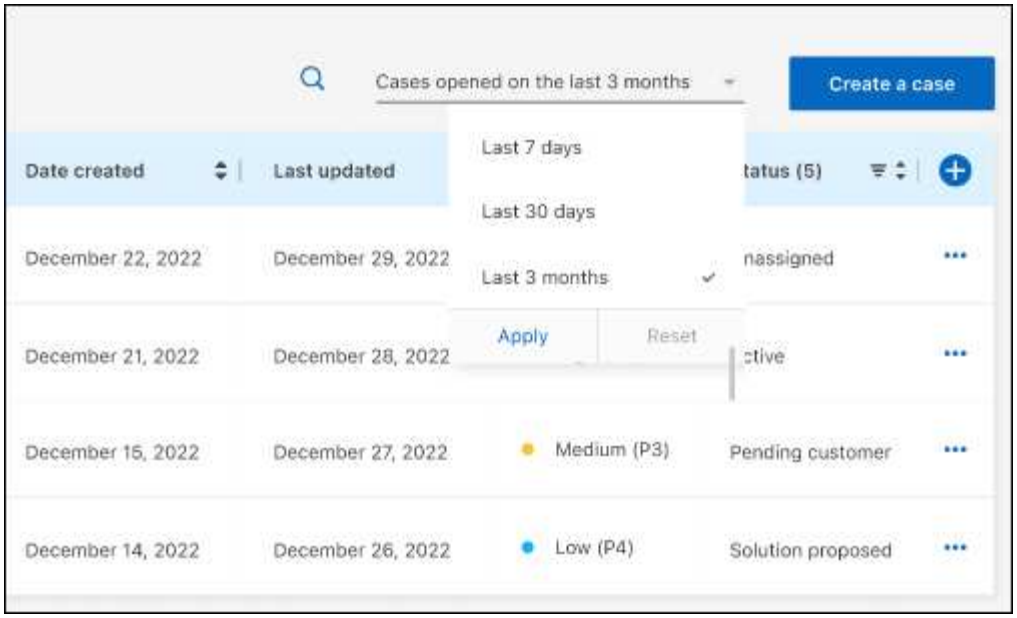
  表の結果には、選択したビューに関連するケースが反映されます。
- 関心のある列を追加または削除したり、優先度やステータスなどの列の内容をフィルタリングしたりできます。その他の列は並べ替え機能のみを提供します。

  詳細については、以下の手順をご覧ください。
- ケースごとに、ケースメモを更新したり、まだ「クローズ」または「クローズ保留中」ステータスになっていないケースをクローズしたりする機能を提供します。

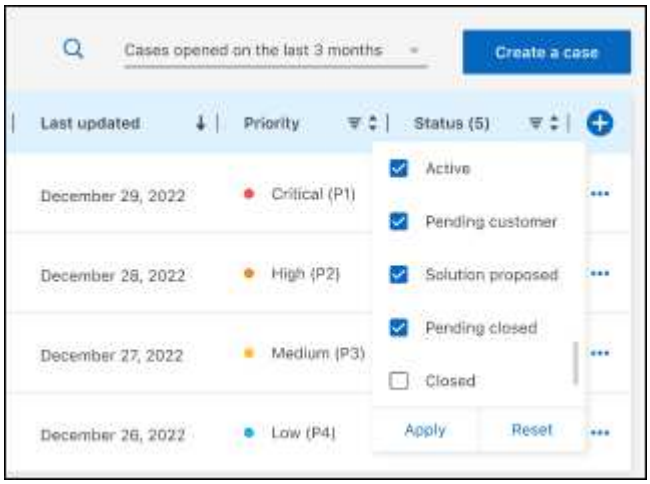
手順

1. BlueXPで、*ヘルプ > サポート*を選択します。
2. *ケース管理*を選択し、プロンプトが表示されたら、NSS アカウントをBlueXPに追加します。

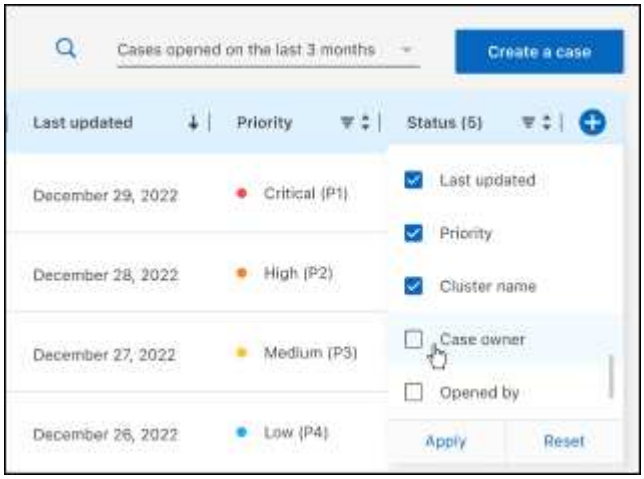
   ケース管理 ページには、 BlueXPユーザー アカウントに関連付けられている NSS アカウントに関連するオープン ケースが表示されます。これは、**NSS** 管理 ページの上部に表示される NSS アカウントと同じです。
3. 必要に応じて、テーブルに表示される情報を変更します。
   - *組織のケース*の下で*表示*を選択すると、会社に関連付けられているすべてのケースが表示されます。
   - 正確な日付範囲を選択するか、別の期間を選択して日付範囲を変更します。



◦ 列の内容をフィルタリングします。



◦ 表に表示される列を変更するには、次に、表示する列を選択します。

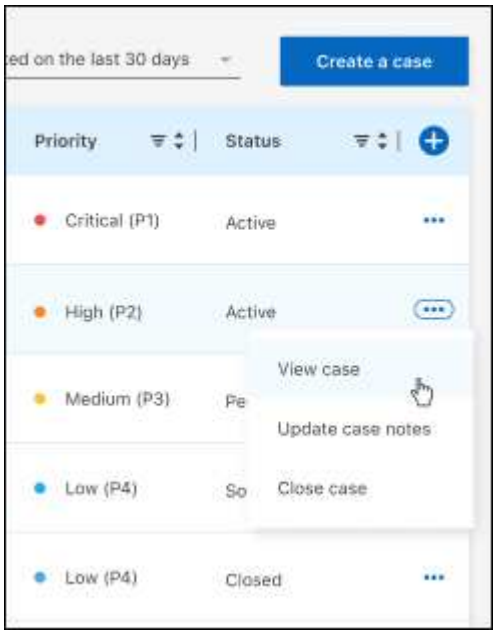


4. 既存のケースを管理するには、利用可能なオプションのいずれかを選択します。

- ケースを表示: 特定のケースに関する詳細をすべて表示します。
- ケースノートを更新: 問題に関する追加の詳細を入力するか、*ファイルのアップロード*を選択して最大 5 つのファイルを添付します。

  添付ファイルはファイルごとに 25 MB までに制限されます。サポートされているファイル拡張子は、txt、log、pdf、jpg/jpeg、rtf、doc/docx、xls/xlsx、csv です。

- ケースを閉じる: ケースを閉じる理由の詳細を入力し、[ケースを閉じる] を選択します。



法律上の表示

法的通知から、著作権情報、商標、特許などを確認できます。

著作権

"https://www.netapp.com/company/legal/copyright/"

商標

NetApp、NetAppのロゴ、NetAppの商標一覧のページに掲載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。

"https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/"

特許

現在NetAppが所有する特許の一覧は以下のページから閲覧できます。

https://www.netapp.com/pdf.html?item=/media/11887-patentspage.pdf

プライバシー ポリシー

"https://www.netapp.com/company/legal/privacy-policy/"

オープンソース

通知ファイルには、 NetAppソフトウェアで使用されるサードパーティの著作権およびライセンスに関する情報が提供されます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。